



戦争遺跡・旧陸軍登戸研究所見学会に参加して

2月26日(土)、小田急線・生田駅に集合。参加者は19名で、2グループに分かれて、“旧陸軍登戸研究所の保存を求める川崎市民の会”の宮永さん、今野さんに、それぞれ案内していただきました。旧陸軍研究所は、明治大学生田キャンパス内にあります。

1937(昭和12)年に、新宿の陸軍科学研究所の実験場が、登戸に移され、電波に関する実験研究が行われていました。

戦争が拡大するに従い秘密・謀略戦の研究所として拡充されていき、1000人近くが働き、敷地は11万坪もあったそうです(現在の明治大学キャンパスは約5万坪です)。今でも、当時勤めていた人が近所にたくさん住んでいるそうです。

大学の入り口から、急な坂道を登っていくと右手に弥心(やごころ)神社があります。兵器を開発し、陸軍技術有効賞の賞金で1943年に建てられました。発明の神様が祭っており、後年所員によって建てられた登戸研究所跡碑もあります。

同じ賞金で建てられた動物慰霊碑も、正門近くにあります。表面には「陸軍登戸研究所」「昭和十八年三月」の文字があり、高さ3mととても大きいです。当時、動物を飼育していたという、80代の元所員の方は、「豚が睨んでいる夢を見ることがある」と話していました。生物・化学兵器を研究・開発していたために所員が、あの731部隊への協力と中国人に対する人体実験をしています。証言によれば、最初はいやだったが、自分たちの作ったものがどういう効果があるか、実験していくうちに、何も感じなくなったそうです。戦争は人間性を失わせるものだと思わずにはいられません。

当時のまま残っているのは、他に消火栓(陸軍の☆のマークがついている)、ヒマラヤスギ、第二科生物・化学兵器研究棟(毒物:青酸ニトリル、細菌、ウィルスなどの研究)、弾薬庫、第三科製版所別棟(中国の偽札製版など)があります。偽札製造にあたった棟は、会で保存を求めていましたが、解体が決まり、当日も作業中でした。

第二科生物・化学兵器研究棟は、2010年、当時の部屋・実験器具をそのままの形で、「明治大学登戸研究所資料館」になりました。資料館のパンフレットには、設立の目的として、“この研究所が行ったことがらを記録にとどめ、大学として歴史教育・平和教育・科学教育の発信地とするとともに地域社会との連携の場としていくことを目指しています、と書いてあります。資料館では、第一科から第三科までの活動内容が資料とともにわかりやすく展示され、秘密とされた研究所の全貌が高校生や市民により調べられ、現在に至るまでの経過を紹介しています。

高校生になら、と証言された方や、家に持ち帰っていたタイプミスの雑書綴を寄贈された方もいます。第一科では「ふ号作戦」と呼ばれた風船爆弾も作られていました。直径10mの気球に爆弾を付けて1万個ほどアメリカに飛ばし、361発が到達し、母親と子供ら6人が死亡しています。所員の大半は今の大学生と同年代でした。

戦後65年以上たって、今、憲法を改悪し、米軍と一体となって海外でもどこでも武力行使できる自衛隊にする動きを許すことはできません。戦争に関わる遺跡を保存し、その記録を若い人たちにきちんと伝えていくことがとても大事だと、この見学会に参加して強く感じました。最後にボランティアで案内していただいた保存を求める会のお二人に感謝します。ありがとうございました。



戦争遺跡「旧陸軍登戸研究所」見学会 感想

- ・太平洋戦争の末期に秘密・謀略戦の研究所として本格的に拡充された陸軍登戸研究所の跡地が、最近脚光を浴びつつあり、見学者も急増しているようである。2006年10月「旧陸軍登戸研究所の保存を求める市民の会」が結成され、ガイド役を買っていること、明治大学が当時の建物を保存・活用して、2010年3月に「明治大学平和教育登戸研究所資料館」として設立され、資料等の展示・説明に力を入れ、歴史・平和・科学教育の発信地とし、地域社会との連携の場をめざしておられることに、敬意を表したいと思いました。
- ・説明して下さる方がいて、とても理解を深めることができました。おどろおどろしいが実際にあったことに、ショックでした。再び戦争を起こさないように、その時々課題にしてきたいと思います。
- ・近くに住んでいてこの研究所については聞いていたのに、見学して目を開かれる思いでした。いつの時代もそうですが、「寄らしむべし知らしむべからず」の権力の構造が、最も顕著に現れるのだと憤りを覚えます。戦争はそれが一番ひどい形で現れるものですね。人体実験をしているうちに、人間を殺しているという感覚より、その成果を期待するようになる。恐ろしいことですね。それが、オウムのサリンに繋がるのだと。その恐ろしさ、知ること、伝えることの大切さを考えました。企画に感謝・感謝です。
- ・登戸研究所の戦前からの活動の全容を知る機会を得て、大変有意義なひとときでした。戦争は、終わっていないことを改めて実感。世界中に核爆弾や消化ウラン弾、地雷がいまにも発射しそうな状況下にありまます。60年余知ることをどこかで遮られてきました。知り、学び、行動すること。残りの後半生を以上に徹したいと感じています。
- ・戦争が忘れ去られていく中、最近の中国・ロシア・北朝鮮との軋轢から戦争への足音が聞こえ大変心配である。政府の右派の動向も危ない。登戸研究所を訪ね、戦争の異常さ・平和の大切さを再認識できた。今後も平和を守る活動に微力ながら参画したいと考えている。
- ・戦争が風化しつつある中、登戸戦争遺跡の意義を強く感じた。後世に残し伝えたい。展示品のなかでも、「雑書綴り」には目を奪われた。殆どの記録が失せた中で、大変貴重な記録で一職員が非公式に留めたとのことである。戦争の名残りは至るところにあることを教える。それを見つけ、伝えることも、私たちの努めであろう。
- ・旧陸軍登戸研究所の成果(?)が中国の731部隊やベトナム戦争、ミドリ十字・エイズ訴訟などに繋がっていること、歴史は続いていると強く思いました。平和の歴史を引き継いで、憲法九条を護る輪を大きく繋げていかなくてはと思います。

米・国務省・日本部長の発言問題

米国のメアK. Maher・国務省日本部長(前・在沖縄総領事)が昨年、講演で、「沖縄の人は「ごまかし」と、東京に対する「ゆすり」の名人だ」などと発言した、と報道された。(インターネットで、その“メモ”が公開されている <http://peacephilosophy.blogspot.com/2011/03/anger-spreads-over-kevin-mahers.html>)。

「米国務省内で」、「学生相手で」、「非公式会合で」とされてはいるものの、米国政府のしかるべき立場にあり、かつ対日本の政策責任者ともいふべき人物としては、きわめて侮辱的な発言であると思う。

7日に、米国大使館は、「この発言は、米国政府の見解を全く反映していない」旨の声明を発表している。8日には、沖縄県議会や那覇市議会などが、抗議の決議を全会一致で上げたのは極めて当然である。日本政府の対応は明確ではない。この傲慢さを許してしまわないで、毅然とした態度をとるとともに、今こそ、沖縄の基地の返還に向けての行動を起こすべき、と思う。また、「思いやり予算」の計上の廃止も当然のこととしてやっていくべき、であろう。(3月9日記) (代田2丁目・伊東 宏)

集会等の紹介

3月19日(土) 午後1:30~5時 シリーズ・シンポジウム「日本国憲法の21世紀的意義を探る」

「現代の貧困問題と社会保障の課題」 唐鎌 直義 氏(元・専修大学)

「日米安保体制と沖縄基地」 明日川 融 氏(法政大学)

「民主党政権と国会改革」 只野 雅人 氏(一橋大学)

主催:日本科学者会議 全国事務局(Tel 03-3812-1472) 参加費:無料

会場:明治大学駿河台キャンパス(御茶ノ水駅下車)

6月4日(土) 午後 九条の会講演会

会場東京日比谷公会堂 (講師や運営、参加方法などの詳細は、おっってお知らせします。)

計画中 憲法記念のつどい：今年は5月7日(土) 午後

代田・九条の会では、

代田教会(代田2丁目)で、5月7日(土)午後1時半～4時ころに、
憲法記念のつどいを計画しています。

- * 講演 「憲法九条をめぐる動き」 金子 勝 さん(立正大学教授)
2年半前の発足のつどいで、憲法ができたころの状況の話をしていただいた、
世田谷・九条の会の呼びかけ人でもある、金子勝さんに
新防衛大綱や、海外派兵にまつわる最近の状況などを話していただきます。
- * お話と朗読 「戦場」(花森安治・作) 日色 ともゑ さん(俳優)

を予定しています。また、近隣の九条の会との共催も相談して、多くの人が集まれるようにと考えています。ぜひご参加ください。

六本木に米軍基地はいらない 第2回)

米軍基地がある港区は、1960年代より、騒音被害や航空機事故から住民を守るため、国や米国に対して基地の撤去を要請してきました。労働組合や市民がつくる麻布米軍ヘリ基地撤去実行委員会も、平和運動団体や市民団体とともに基地の撤去を求める運動を60年代より進めてきました。このような度重なる要請も無視し、米軍基地はその規模の拡大とともに居座り続けています。この背景にあるものは、米国に対し正当な要求もできない日本の政府の対米従属姿勢そのものです。

米軍基地は、都内には六本木を含めて8カ所、全国で50余カ所もあります。基地周辺の住民は、都市部や住宅密集地にある基地の周辺では甚だしいが、耐え難い騒音被害や、米軍機の墜落事故、さらには暴力暴行事件に巻き込まれ、塗炭の苦しみをなめています。国民が被る犠牲を看過し、米軍に無法を許す地位協定を結んでいるのも対米従属の現れです。

21世紀に入り世界の潮流は、軍事同盟を廃し、大陸横断的な規模での平和共同体を構築する方向に向いています。ここでは外交と交渉による平和的な方法によって国家間の関係を維持し、緊張を解くことが目指されています。米国の軍事力に頼り、「抑止力」にすがろうとする日本政府の姿勢は、この潮流に逆行するもので、時代錯誤と言わねばなりません。世界の潮流は、日米の軍事同盟を廃棄し、基地を撤去すべきであると論じています。六本木に基地はいりません。沖縄にある米軍基地も、全ての基地も撤去すべきです。

この潮流こそ、戦争の放棄、戦力の不保持、交戦権を是としない憲法九条の精神そのものです。憲法九条をまもり、活かす運動とは、歪んだ日本の政治姿勢を正し、国民の利益を優先する政治の実現を図ることにつきるのだと確信しています。この潮流で全世界を覆うため、微力ではあるが力を注ぎたいと思います。
(代田2丁目・坂本 功)

ここは公園
高岡 岑郷
代田5丁目

ここは
戦争をしない憲法をもっている国の
首都のど真ん中にある都立公園
いま ここは

世界一強い国の軍隊に占領された
ヘリポート基地という名の戦場

ここは
子どもたちの遊び場だった

ここは
若い二人が愛を語り合う場所だった

ここは
羊飼いたちの憩いの場所だった



写真 津田 道代
「有事」はいらない(詩人会議:発行)(2002年5月)
から

～ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、
「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめましょう ～

“代田・九条の会”ホームページを開設しました。

<http://www.procyon.sakuraweb.com/>
アクセスしてみてください。

代田・九条の会



ようこそ！ 憲法九条を守り、活かす活動を紹介します

～ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で

「日本国憲法第九条」をまもり、活かす活動をすすめましょう～

憲法第九条 戦争の放棄、戦力及び交戦権の否認

第一項 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

第二項 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

…日本国憲法 [前文](#) 及び [全文](#) はこちらです…

設立趣意書

「代田・九条の会」は、2008年11月3日に発足しました。「代田・九条の会」の目的と申し合わせ事項、発起人と参加への呼びかけなどを [ここ](#) 掲げます。発足にいたる経過及び「設立のつどい」(発足式)の雰囲気などを [News第1号\(記念号\)](#) に紹介します。

本年度の活動計画

- (1) 2月26日(土) 戦跡めぐり「旧陸軍登戸研究所」見学会
- (2) 5月7日(土) 憲法記念日 によせて
… 講演「憲法九条をめぐる動き」と、お話と朗読
- (3) 8月6日(土) 終戦記念日によせて
… 映画鑑賞会「ハーツ・アンド・マインズ」(ベトナム戦争の真実)
- (4) 11月3日(木、祭日) 三周年のつどい

2010年度の活動

詳細はニュースをご覧ください。

2月28日 学習会「衆議院比例定数削減と憲法九条」([ニュース16号](#))



日本国憲法

第9条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇または武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

2. 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。

国の交戦権は、これを認めない。

第99条 天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、

裁判官その他の公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負ふ。



お願い：ニュースの原稿を募集しています。400字位で、お近くの世話人までお寄せください。
また、活動費用に充てるためのカンパをお願いします。